

# 計画小委員会 活動報告

計画小委員会

小委員長 松下 潤

## 1. 小委員会の目的

戦後の60年、急速な経済成長と人口流入を背景として大きな成長を遂げてきたわが国の地域・都市は、これから徐々にその変化の振れ幅を狭めつつ、成熟した地域形成へと向かうものと考えられる。国土交通省の社会資本整備審議会では、駅を中心とした「コンパクトな都市づくり」が提言されている状況にもある。これからの時代は、環境的、経済的、財政的な制約のもとで、また限られた空間の中で高密度な社会を営むべきわが国にとって、豊かで活力ある地域・都市を形成するためにも、地下空間の有効かつ計画的な活用はますます重要な課題であると考えられる。

計画小委員会は、こうした視点から、都市空間の再編や都市再生に結びつく地下空間利用の計画システムや事業システム、費用対便益・価値評価システム等の確立を目的として研究活動を行っているところである。

## 2. 研究内容

### 2.1 テーマ

- (1) 海外事例にみる地下空間利用の計画・事業システムの分析及び有用性に関する評価
- (2) 高架式鉄道（連続立体事業）の地下化事例にみる地上空間を含めた地下利用の事業化システムの分析及び有用性に関する評価
- (3) 既存の地下空間利用施設の改善やネットワーク化に関わる事業システムの分析、及びユニバーサルデザイン手法の検討

### 2.2 基本方針

計画小委員会では、これまで、(1)では、海外事例として「ボストン・ビッグディグプロジェクト」を取り上げ、地下空間利用の事業システムの分析と高架式高速道路の地下化後の上部空間利用計画の追跡調査を行ってきた。とくに今期においては、上部空間を含めた地下空間利用の有用性の評価に関する研究を進めているが、このビッグディグプロジェクトは単に高架式高速道路を地下化するプロジェクトという側面だけではなく、その跡地の利活用による「都市再生への誘発効果」(トリガー効果)を併せ持つ総合的なプロジェクトであるという視点から評価し、とりまとめを行う予定である。

(2)では、「シオサイト・ゆりかもめ線」を含めた地下空間利用における公民協働の仕組みについての分析をふまえ、東京都における鉄道高架事業と地下化事業の実態調査及び今後の鉄道計画に関するヒアリング調査（外部講師の招聘による講演会）を行い、地上空間を含めた地下利用の事業化システムの検討を行ってきた。今後も総合的な都市再生やまち

